

世界遺産ウォーク能動体験のすすめ～「歩くことから得られる普遍的価値」～

十津川村観光課 課長補佐 増谷 良一
十津川鼓動の会 会長 今西 芳民
○事務局長 阪口 弘子

1. 活動方針・目的

キーワード「過去のことだけでなく、未来も語る 語り部」

世界が認めた宝物、十津川村の世界遺産〔大峯奥駈道・熊野参詣道小辺路〕を中心に世界遺産の語り部として、来訪者に地域に古くから伝わる、自然と人間がおりなした普遍的な価値をもつ文化・歴史・精神風土など守り伝えるとともに、新たな価値の創造を活動の基本とします。

また、十津川村が目指す「心身再生の郷」への取り組みの一助となるべく「心身再生の道」の語り部として、さらに努力し、地域の資源を輝かせる民間グループとしても、活力ある活動をすすめます。

今、官民一体の取り組みですすめる「歩くことから得られる普遍的な価値」を全国に、また世界に発信し、能動体験をしていただきます。その取り組みのなかで歩くことから得られる様々な可能性を追求し、この「道」を訪れる人と感動を共有しながら、地域の宝を輝かせる語り部として、活動を展開していきます。

2. 活動内容

- ・十津川村の世界遺産
〔大峯奥駈道・玉置山散策コース・熊野参詣道小辺路各コース〕案内
- ・心身再生の郷 体験イベント
「魅惑体験 果無ウォーク・魅惑体験 玉置山ウォーク」案内
- ・「なびきツアー」
- ・その他（各種旅行業者及び個人の要望への対応等）

3. 今後の課題等

- ・語り部としての技術や質の向上を目指し、組織の拡大を図る。
- ・世界遺産の道を守り、整備し、発信していく為の、官民一体となった組織や、仕組みづくりを構築する。
- ・また、その後は、その組織の取り組みの効果を確かめ、改善策を検討するしくみづくりを行う。



活動の流れ

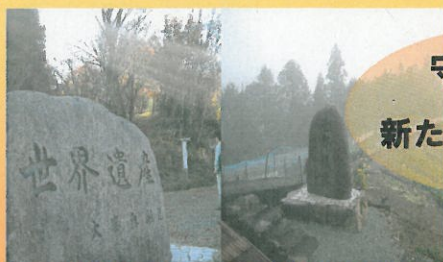
- 平成13年10月 十津川村の語り部養成講座 開講
- 平成14年 6月 語り部「十津川鼓動の会」発足
- 平成16年 6月 十津川温泉郷が全国に先駆け「源泉かけ流し」を宣言
- 平成16年 7月 「紀伊山地の霊場と参詣道」ユネスコの世界遺産に登録される
- 平成17年10月 第1回「源泉かけ流し温泉サミット」の開催
「世界遺産 語り部とゆく果無ウォーク」を実施
- 平成18年 5月 五條吉野魅惑フェスティバルに参加
「魅惑体験 玉置山・果無ウォーク」を実施
「プチ湯治プラン(温泉+古道ウォーク)」を実施
- 平成18年 9月 「なびきツアー」開催 テレビ東京「ガイアの夜明け」
で十津川村の再生プロジェクトが放映
心身再生へ導く「世界遺産ウォーク」の実施

活動方針

活動方針

世界が認めた宝物、十津川村の世界遺産〔大峯奥駈道・熊野参詣道小辺路〕を中心に語り部として、来訪者に地域に古くから伝わる、自然と人間が織り成した普遍的な価値をもつ文化・歴史・精神風土など守り伝えるとともに、新たな価値の創出を活動の基本とします。

世界遺産の語り部として



大峯奥駈道

熊野参詣道小辺路

守り伝える
+
新たな価値の創出





活動実績 2006 ～古道ウォーク イベント～

★ 官民一体の取組み

● 魅惑体験 玉置山・果無ウォーク

5月～11月

● 7千湯治プラン (温泉+古道ウォーク)

11月～

★ ● なびきツアー (非日常の体験)

8月・9月

村の豊かな自然を舞台に、歩くことを通して心身再生





心身再生の郷へ



玉置山ウォーク



果無ウォーク



なびきツアー (道普請)

活動実績 2006 ～なびきツアー～

●なびきツアー 8月・9月

なびきツアーは非日常の体験
(山小屋に泊まり、修験道を歩く)

「なびき」とは
大峯奥駈道には、75箇所の「なびき」といわれる行場があり、重要な通過点になっています。
「なびき」と名づけた理由も、参加者にとって、人生における重要な通過点となることを願っているからです。



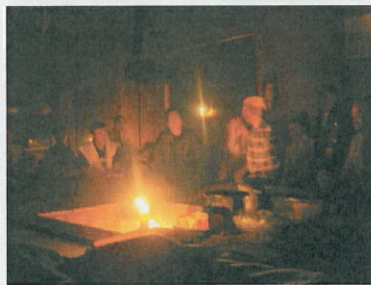
活動実績 2006 ～なびきツアーの内容～

●なびきツアー (9月)

歩くこと、そして共に体験すること



闇の体験



山小屋



水汲み



クサリ場



祈り



道普請

参加者の声

参加者の声

歩きながら人生につながるような自分の「キーワード」を探す



キーワード「決断力」

普段味わえない体験でした。
決断力ということを読みながら歩き
この先迷ったときには、この体験を
思い出すでしょう。

キーワード「雄大さ」

自分の人生を振り返った。
心身再生し、大きな夢を持った人生
を明日から歩んでいきたいと思った。

これから



なびきツアーは、「道」の価値を発見する取り組みでした。
このことを通じて、私たちは多くの気づきとヒントを学びました。
これからさらに、歩くことから得られる様々な可能性を追求し、
この「道」を訪れる人と感動を共有しながら、地域の宝を輝かせる
活動を展開していきます。